



シーシーエスの「自然光 LED」が山口県立美術館で採用に ～LED で一日の時間の移り変わりを再現、2012年4月26日に開館～

この度、当社、シーシーエス株式会社（本社：京都市上京区 代表執行役社長 各務嘉郎）が開発した超高演色性 LED 照明「自然光 LED」が、山口県立美術館（山口市亀山町、館長 西村亘）の画家の雪舟や雲谷派の作品の展示用照明として採用されました。

■美術品にやさしい光で時の変化を表現

山口県立美術館は 2011 年 5 月から 2012 年 3 月末にかけての大規模改修工事を終え、2012 年 4 月 26 日にリニューアルオープンをいたします。

その最重要コレクションである雪舟や雲谷派を展示する「展示室 C」の全ての展示ケースに当社の「自然光 LED」照明（ライン型）が採用されました。

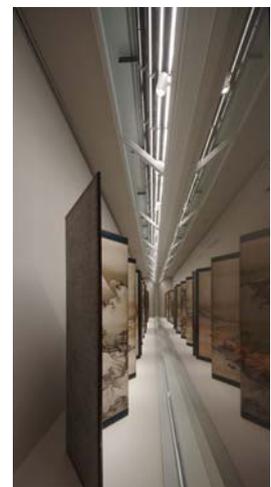
この照明には、細かな光の色味変化の調整を、容易な操作で実現する専用プログラムが組み立てられており、朝方から夕刻へと光の色味が変化するなかで、作品の表情が移り変わっていく様子を再現できます。当社独自の技術により、どの光の色味^{※1}においても平均演色評価数（Ra^{※2}）95 以上の演色性を維持することに加えて、展示品の光による損傷に対する配慮も同時に実現しております。



展示室 C

当社の「自然光 LED」は紫色から赤色まで全ての可視光の波長を含んでいるため、対象物の色の再現性に優れている点を高くご評価いただき、今回、展示用照明として採用されました。

山口県立美術館では今後「自然光 LED」照明を使い、光の変化による展示物の見え方の違いについて勉強会等を企画することで、美術品の新たな鑑賞のありかたなどを研究・啓蒙していく方針です。



展示ケース内

シーシーエスは本案件における納入実績およびノウハウの蓄積を基礎として、積極的に美術館・博物館向けに「自然光 LED」によるソリューション提案を進めてまいります。

※1: 今回採用となった照明の相関色温度は 3,000 K～5,000 K です。

相関色温度(K:ケルビン)とは、一般的に白色光源と呼ばれる光源からの光の色味を表す単位で、数値が高いものほど青白みを帯びた光色で、数値の低いものほど赤みを帯びた光色となります。(朝夕の光は 3,000 K～4,000 K 程度、昼の光は 5,000 K～8,000 K 程度です。)

※2: 平均演色評価数(Ra)とは、照明光による物体の色再現性についての良し悪しを表す代表的な指数です。ある光源のもとで、各物体の色彩が基準光源による照明とまったく同じ色彩に見える場合、その光源の Ra は 100 になります。色再現性が悪化するほど Ra の値は小さくなります。なお、Ra は色の再現性に対する忠実度を表した指数で、主観的な色見え方に対する好ましさを表すものではありません。

■ 本件に関するお問い合わせ ■

シーシーエス株式会社 <http://www.ccs-inc.co.jp>

経理財務グループ広報IRセクション 梶原、松田

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下立売上ル

TEL: 075-415-8291 (広報) FAX: 075-415-7724 E-mail: koho@ccs-inc.co.jp